



NotebookLMを活用した「自己成長する」 社内AIボット構築の完全ガイド

問い合わせ対応の自動化から、組織ナレッジの最大活用まで

「また、その質問ですか？」 - 繰り返される問い合わせが、チームの時間を奪っている

- 経費精算の方法、有給申請の手順、プロジェクトの進捗確認…
- 本来なら5分で済むはずの業務が、説明に30分、フォローアップに15分かかっていませんか？
- こうした「見えないコスト」が、チームの創造性を蝕んでいます。



**答えは、あなたの会社の情報だけを学習した専用AI。
ただし、その「育て方」が成否を分ける。**

3流の方法



「すぐに陳腐化する」

1流の方法



「常に最新の状態を保ち続ける仕組み」

なぜ、多くのAI導入は失敗するのか？ ビジネス利用で外せない「3つの絶対条件」



1. 鉄壁のセキュリティ

企業の機密情報を守り、データが外部のAI学習に使用されないこと。



2. 絶対的な情報正確性

AIの「嘘（ハルシネーション）」を防ぎ、回答の根拠が明確であること。



3. 圧倒的な導入の手軽さ

専門知識が不要で、誰でも数分で導入・運用できること。

「この3つを満たさないAIツールは、情報漏洩、誤った意思決定、導入の挫折という致命的な結果を招く可能性があります。」

NotebookLMは、ビジネス利用の3条件を完璧にクリアする



セキュリティ

Feature: あなたのデータはAIの学習に使われない。

Benefit: 企業の知的財産を完全に保護。コンプライアンスが厳しい業界でも安心。



正確性

Feature: 出典明記でファクトチェックが瞬時に完了。

Benefit: 回答の正しさを一瞬で確認でき、業務判断に活用できる信頼性を確保。



手軽さ

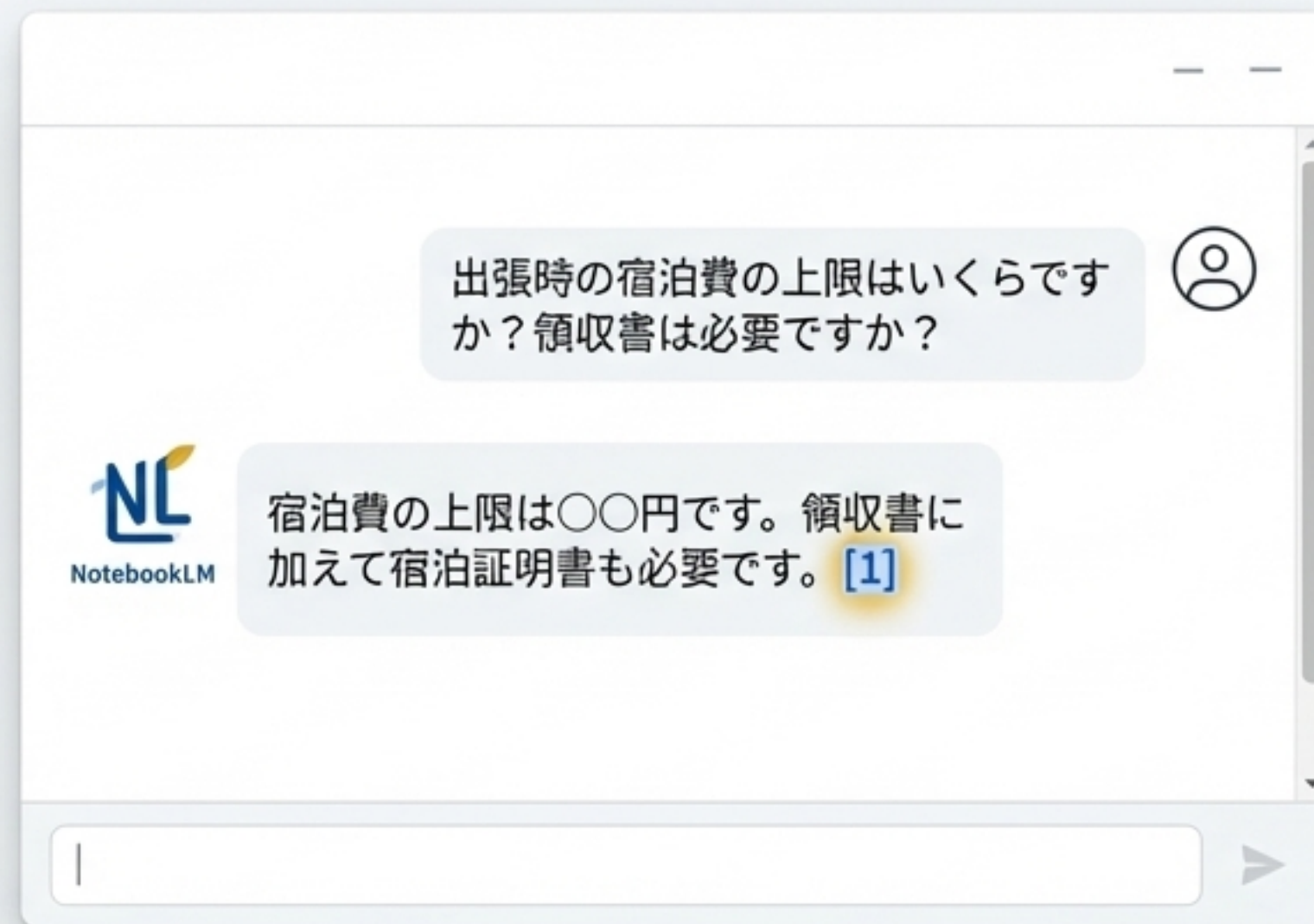
Feature: 5分で導入完了。専門知識は一切不要。

Benefit: 総務、営業、誰でも今すぐAIボット作成を始められる。しかも**完全無料**。

活用例1: 24時間365日働く 「AI社内ヘルプデスク」

総務・人事の定型業務を90%削減

「深夜や週末でも、社員はいつでも自己解決できるように。担当者は本来の改善業務に集中できます。」



活用例2: 組織の知見を集約した 「営業支援ボット」

新人でも、エース級の提案が可能に

「トップセールスのノウハウが凝縮された回答により、チーム全体の提案品質が向上し、新人でも『この人、できるな』と顧客に思わせる提案が可能になります。」

製造業のお客様にDX提案をする際の、効果的な切り口と成功事例を教えてください。

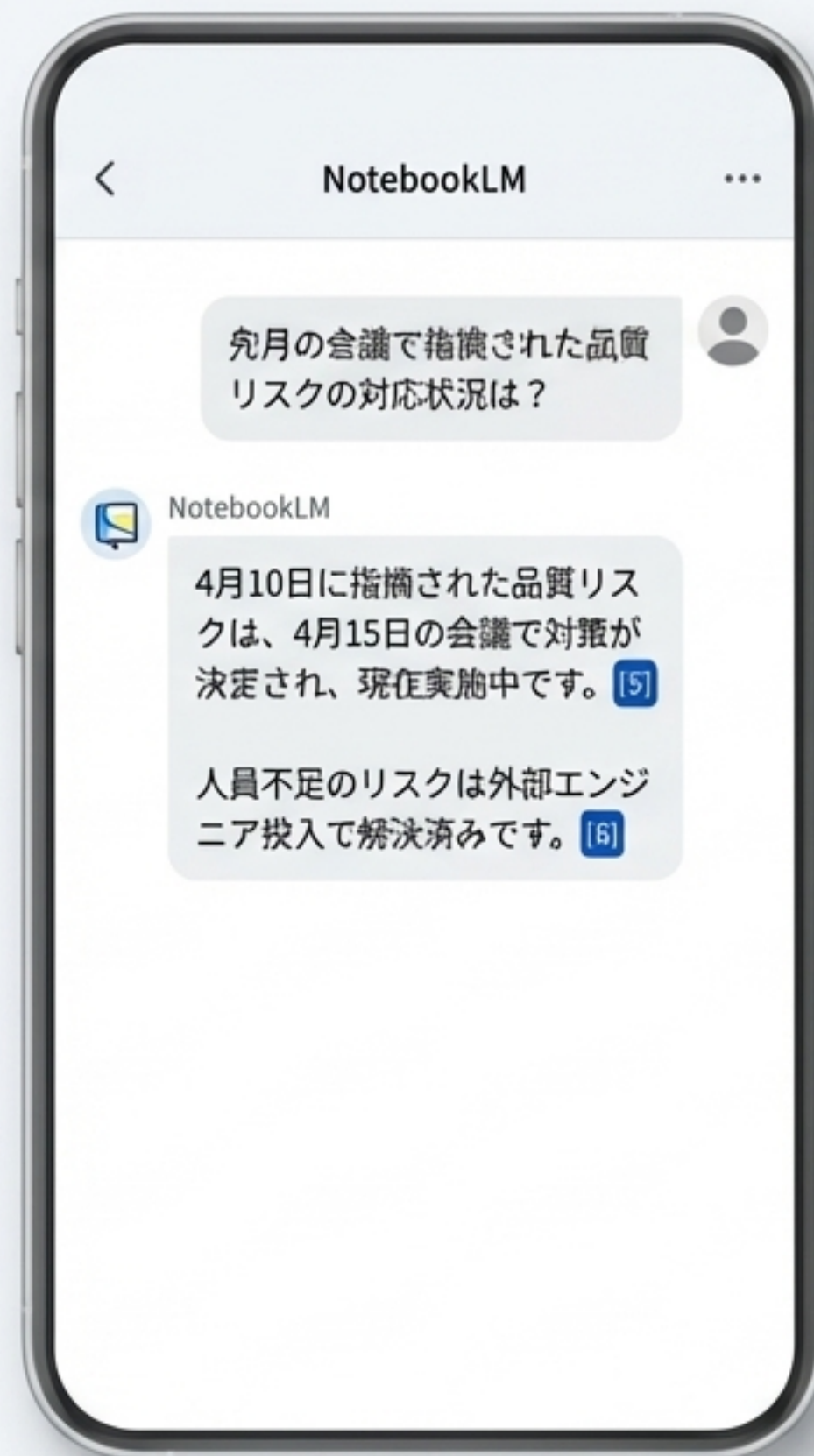


コスト削減と品質向上を軸に、A社の導入事例（具体的な数値効果）を提示するのが有効です。初回提案では... [3]

活用例3: 全てを記憶する 「プロジェクト専属アシスタント」

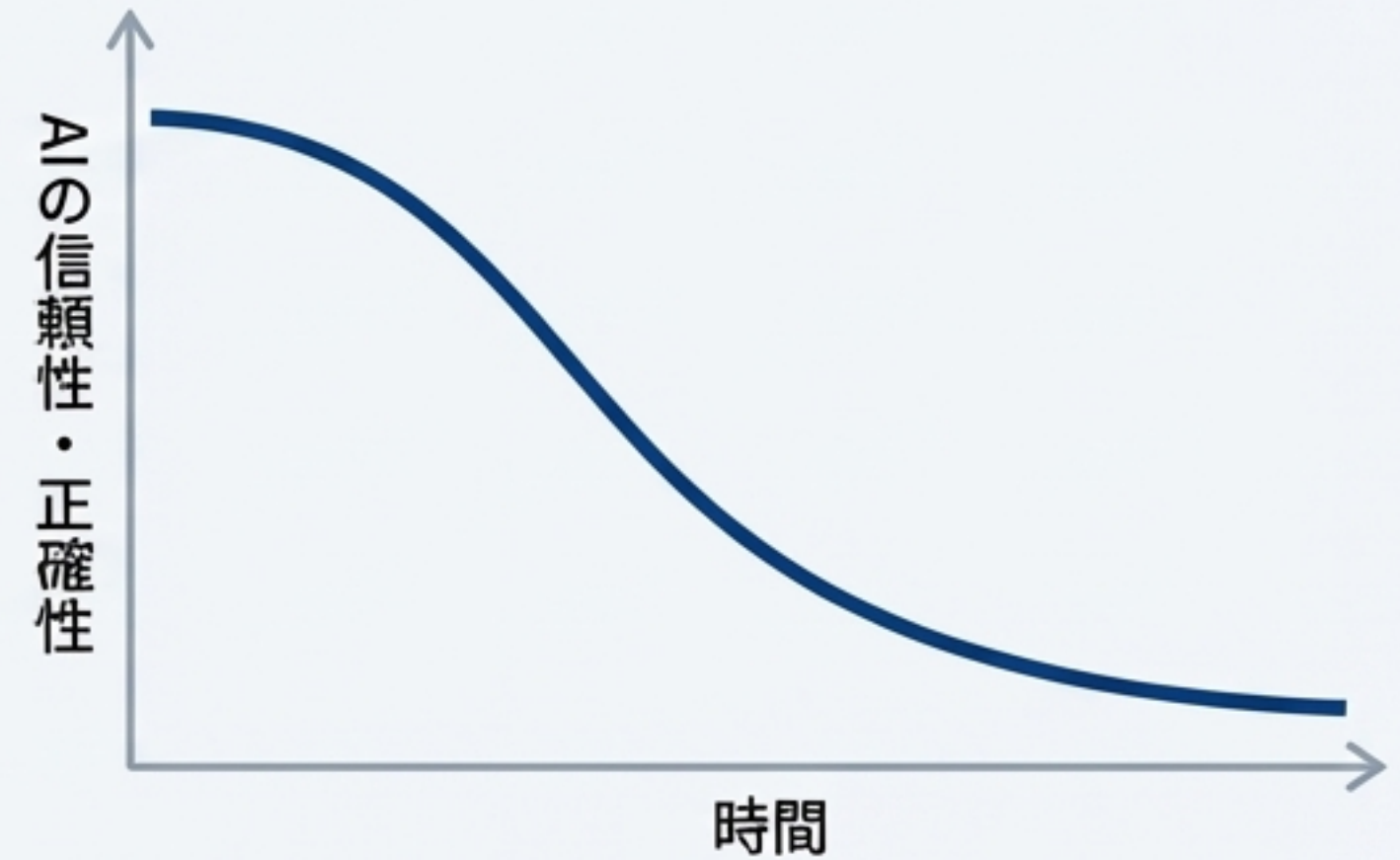
「あの件、どうなった？」をチームから完全になくす

「過去の議事録やチャットログを探す不毛な時間をゼロに。プロジェクトのキャッチアップが5分で完了します。」



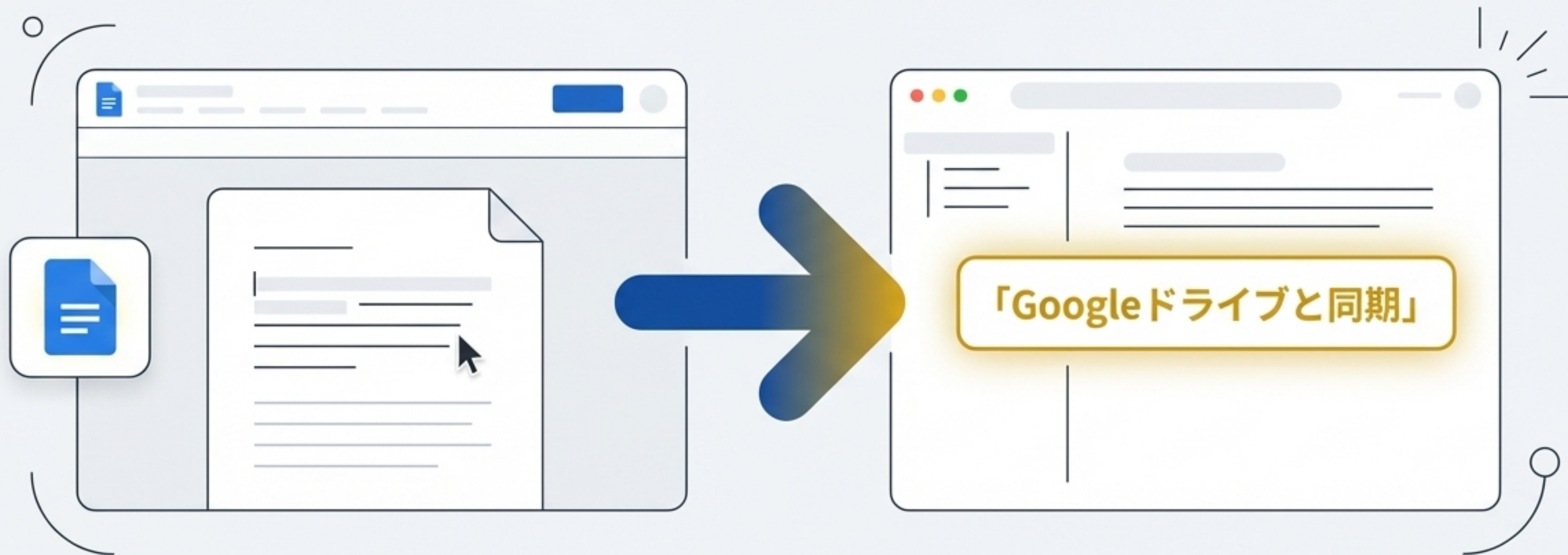
作って終わり、では 必ず失敗する。 情報の陳腐化という 「見えざる壁」

- AIの価値は「情報の鮮度」で決まります。学習させた情報が古くなれば、AIの回答も古くなってしまいます。
- 規定の変更、方針転換、担当者変更... ビジネス情報は日々変化します。



突破口: PDFではなく、Googleドキュメントで知識を管理する

手作業でのファイル更新はもう不要。ワンクリックでAIの知識を最新化。



「Googleドキュメントをソースにすれば、元の文書を更新した後に同期ボタンを押すだけで、AIの知識が瞬時に最新版になります。」

黄金のワークフロー: AIが「勝手に賢くなる」仕組みの作り方



「プログラミング知識は不要。提供されるコードをコピー＆ペーストするだけで、この仕組みが完成します。」

理想的なナレッジマネジメントサイクルの完成



問い合わせ対応に追われる日々から、 創造的な仕事に集中できる毎日へ



Before: 繰り返される質問への対応



After: 本来やるべきだった業務改善や企画立案

今すぐ始めるための3ステップ

1



パイロット領域の選定

まずは対象を絞る。（例：総務・人事のFAQ対応）

2



情報ソースの集約

関連するマニュアルや規定をGoogleドライブにまとめる。

3



最初のボットを構築

NotebookLMにアクセスし、最初のソースをアップロードする。

notebooklm.google.com